

東京地方裁判所 民事第2部 合議 Ae 係

森 英明 裁判官 殿

三貫納 有子 裁判官 殿

鈴木 祥吾 裁判官 殿

「内閣総理大臣は、安保法制に基づき 自衛隊を海外に出動させてはならない」 との判決を求める署名7232筆を提出します。

先にお知らせしましたとおり、わたしたち安保法制違憲差止め訴訟原告有志及び他有志は、上記表題の署名を集める活動を展開し、本日現在7232筆を集めることができました。

2020年は、その幕開けとともに、アメリカとイランとの間で戦争になってしまうのではないかとというニュースが世界を震撼させました。アメリカのいいなりに動いているかのような現政権は、自衛隊を調査研究の名目で中東に派兵し、平和憲法を有するわたしたちの国も、いつまた戦争に加担し、被害者となり加害者となる日がやってくるのではないかと懸念せざるを得ません。そしてこの懸念に根拠を与え、わたしたちを脅かし続けているのは、一連の安保法制に他なりません。

ジョン・レノンの有名な楽曲に「Give Peace A Chance」があります。「平和を我等に」という邦題が付けられていますが、元のタイトルをよくよく見れば、命令形であることに気付かされます。誰が誰に命じているのでしょうか？ 政権に命じているようにも思われますが、もっと主体的に捉えることも可能と思います。

日本国憲法第97条には「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて、これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである。」とあります。

ジョン・レノンの楽曲のタイトルと、日本国憲法に何か響きあうものがあるように思われます。平和に機会を与えよと命じたのは、「人類の多年にわたる自由獲得の努力」すなわち「歴史」であり、命ぜられたのは、「永久の権利として信託」されたわたしたち自身に他ならないように思われます。

わたしたちは、わたしたちの自由を根底から奪い去る戦争の予兆に対し、敏感であらねばなりません。そして、裁判所がわたしたちとともに、「平和に機会を与える」一人に加わることをお願いします。

平和憲法を持つわたしたちの国だからこそ、明確な形で平和にチャンスをもたらすことができるのだと思います。わたしたちの願いをこめた署名をお届けします。

2020年1月16日

安保法制違憲差止め訴訟原告有志 飯島滋明 大村芳昭 小川佳代子 小倉志郎 志田陽子 志葉玲 下川浩 高橋俊敬 竹中正陽
崔善愛 千葉利江 原かほる 藤丸徹 山口宏弥

他有志 秋田健 秋山信孝 浅井旺 浅生卯一 朝倉真知子 浅野敏勝 有家綱雄 有家朋子 飯田能生 池田香代子 石川康子 石原潔 井田政則 伊藤滋雄 齋正敏 稲益実
入江東樹 岩越陽子 岩本昌子 大台誠 大谷猛夫 大津留公彦 大原邦清 岡田良雄 岡本達思 岡本彰子 岡安信一 小澤浩明 落合司郎 小野洋 角田達雄 加固治男 片平正
美 加藤昭子 加藤孝志 上條充 川島進 川村晃生 草原光明 黒田恵 桑山加志子 胡口靖夫 小宮清子 近正美 今野寿美雄 佐伯紀男 酒井淳至 櫻井郁利 佐藤明吉 佐藤龍
市 佐野二三子 篠原陽子 柴口賢一 清水民男 清水秀正 杉野恵一 関井富士男 妹尾三郎 楚山大和 高田宣実 高久剛吉 玉盛清 俵義文 綱川鋼 常松裕志 土井由三 殿塚
明夫 長尾晴人 中嶋直子 中島剛二 永田嘉久 長野協一 中村史也 中村華子 中山一郎 名兒耶清吉 鳴井勝敏 野木裕子 野口俊明 島山照子 原秀樹 原久美子 東川悦子
平山秀朋 深澤裕 福島みどり 藤井石根 藤牧充 古橋正一 星川まり 堀康廣 堀尾輝久 本望隆司 前田勝 松尾勉 松本和美 三井富美代 三宅征子 三輪和恵 村本彰 森田
俊隆 八木倫明 谷古宇恵美 山口あずさ 吉岡真紀子 吉野典子 渡辺一枝 ※50音順